

水道配管修理メモ： 使っていない配管を「切ってキャップで塞ぐ」方法（T字の左側を止水）

この資料は、ビニールハウス横の塩ビ配管で、T字継手の左側が不要になり、そこからの漏水を止めたい場合の、もっとも簡単で安全な方法をまとめたものです。ポイントは、既存のT字継手はさわらず、左側の配管を途中で切って「キャップ＋接着剤」で塞ぐことです。

1. 用意するもの（ホームセンターでの買い方）

塩ビキャップ（呼び径13mm程度）

- ・配管に「13」などの印字がある場合は「VP13用の塩ビキャップをください」と伝える。
- ・わからない場合は、現物のパイプの端を切り取って持っていき、売り場で合わせてもらおうと確実。

塩ビ管用接着剤（VP/VU管用）

- ・黄色やクリーム色のチューブ／缶タイプ。
- ・「塩ビ管用」「水道配管用」と書いてあるものを選ぶ。

パイプを切る道具

- ・塩ビパイプカッター（専用工具／あると楽）。
- ・なければ金ノコ（弓のこ）でも可。

仕上げ用の道具

- ・紙やすり（＃100～＃240くらい）またはカッターナイフ（切り口のバリ取り）。
- ・雑巾（接着前に水分や泥を拭き取る）。
- ・必要に応じて軍手・ビニール手袋。

2. 作業前の準備

- 1) 家側または元のバルブを閉めて、配管に水が来ない状態にする。
- 2) ハウス側の蛇口を開けて、水を抜いておく。
- 3) T字継手の周りをスコップなどで広めに掘り、手がしっかり入る作業スペースを確保する。
- 4) T字から左側へ伸びているパイプ全体が見えるように土をどけておく。

3. 左側のパイプを切り、キャップで塞ぐ手順（メイン作業）

切る位置を決める

- ・T字継手そのものはさわらず、T字から左へ5～10cmほど離れた位置で切る。
- ・あまりT字のすぐ近くだと、作業中にT字に力がかかって割れるリスクがある。少し余裕をもって切断位置を決める。

パイプをまっすぐ切断する

- ・パイプカッターの場合：説明どおりに締め付けながらゆっくり回して切る。
- ・金ノコの場合：できるだけ直角になるように意識して切る。

切り口のバリ取り

- ・切り口に出たギザギザ（バリ）を、紙やすりやカッターで軽く削って滑らかにする。
- ・ここがガタガタだと、キャップが奥まで入りにくくなり、止水性能も落ちる。

接着面をきれいに乾かす

- ・切断したパイプの外側（差し込まれる部分）と、キャップの内側の水分・泥を雑巾でよく拭き取る。
- ・可能であれば数分置いて、表面が乾いた状態にしておく。

接着剤を塗る

- ・パイプ外周の差し込み部分にぐるっと一周、薄く均一に塗る。
- ・キャップ内側にも一周塗る。塗りすぎてダマにならないよう注意。

キャップを奥まで差し込む

- ・接着剤が乾く前に、キャップを一気に奥まで差し込む。
- ・軽くねじるようにしながら押し込むと、接着剤がまんべんなく広がる。
- ・奥まで入ったら、そのまま5～10秒ほど手で押さえておく。
- ・はみ出た接着剤は布で拭き取る。

固まるまで待つ

- ・目安として15～30分程度は通水しない（商品パッケージに時間指定があれば、それに従う）。
- ・寒い季節は少し長めに待つと安心。

通水して確認

- ・元栓をゆっくり開け、キャップ部分から水がにじまないか確認する。
- ・T字の右側や他の蛇口も正常に使えるかチェックする。

4. 注意点・よくある疑問

なぜT字継手を外さないのか？

- ・写真のような塩ビ配管のT字継手は、もともと塩ビ用接着剤でがっちり固定されている。
- ・10年以上経っていることもあり、接着剤とパイプが半分一体化しており、基本的に「外すことは想定されていない」。
- ・無理に回したりこじったりすると、まだ生きている配管側（下方向や右側）が割れたりヒビが入るリスクが大きい。

余った左側の配管はどうする？

- ・今回のキャップ止水で、水はもう流れないので、そのまま地中に残しておいて問題ない。
- ・邪魔な場合は、キャップから先の配管をさらに短く切って埋め戻してよい。

応急処置だけしたい場合

- ・ 資材を買いに行く前に一時的に止めただけなら、壊れた蛇口や開口部をゴムやビニールで巻いて、ホースバンドで強く締める方法もある。
- ・ ただしあくまで一時しのぎなので、最終的には今回のようにキャップ + 接着でしっかり止水するのがおすすめ。

5. イメージ図（今回の工事イメージ）

